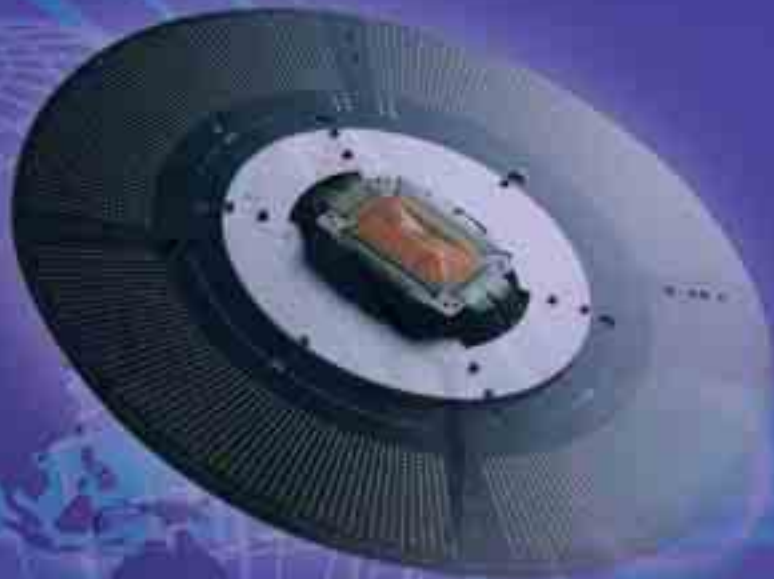


第48期中間期のご報告 2006年4月1日から2006年9月30日まで

BUSINESS REPORT 2006 JEM TODAY



 **日本電子材料株式会社**

証券コード:6855

着実に、一歩ずつ世界No.1を目指して 歩み続けていきます。

アドバンスプローブカードの拡販。 そして次世代型の市場投入に向けて。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
当社は2006年9月30日をもちまして、2006年度中間期を終了いたしましたので、営業の概要をご報告します。

2004年度からの中期経営計画「Break Through for 2006!」も今年で最終年度を迎えました。中期計画の中でも戦略的拡販を行っておりましたアドバンスプローブカード、VCシリーズ（垂直接触型）とVSシリーズ（垂直スプリング接触型）の売上は2005年度より急激な伸びを見せ、現在開発中の次世代型アドバンスプローブ

カードであるMAシリーズ（MEMS技術微細高密度プローブカード）、MCシリーズ（MEMS技術大領域高密度プローブカード）の本格的市場参入まで、当社の主力製品として売上げの中で高い比率を占める見込みです。MA、MCシリーズについては、来年度から段階的に出荷を始める予定ですが、しっかりと技術の地盤を固め、納入先である半導体企業の評価を高めつつ、VC、VSシリーズに代わる主力製品となるよう成長させていくことが、次期中期経営計画の大きな課題です。

半導体の生産拠点として成長著しいアジアでの拡販。 そしてアメリカ・ヨーロッパとの連携強化。

かねてから海外市場での拡販を重要方針のひとつとして掲げておりました当社ですが、特に成長著しいアジアで将来にわたって当社の優位性を保つことは大きなテーマです。本年度の10月、シンガポールに現地企業との合弁会社を設立し、来年早々には本格的に操業を開始する準備を整えています。
アジアにおいては現在、お蔭様で韓国でのビジネスが順調に推移しています。今後はJEM台湾を中心とし、中国、シンガポールへと中国語圏での売上げを伸ばしていくことで、アジアでの拡販体勢

を更に強固なものにしたいと考えています。そのためにも、これまで以上に技術サポートサービスの充実に努め、現地顧客との信頼関係を強化していく所存です。

欧米の大手半導体企業は生産拠点としてアジア諸国と強い関係を持っており、その意味でも当社がJEMアメリカ、JEMヨーロッパ（フランス）とアジア各拠点との連携を強めていくことは、グローバルな展開の中で大きな力になるものと確信しています。

世界に誇る技術力で半導体の進歩を支える。 期待できる大きな成長。

近年、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの普及でフラッシュメモリーの需要が拡大してきました。当社は、300mm一括のプローブカードなど、フラッシュメモリー向けプローブカードの製造に強みがあり、この分野に関しては世界一の技術を保有していると自負しております。今後もフラッシュメモリーを必要とするデジタル家電の需要は高まっていくことが予想されますので、安定した成長が見込めます。

また、薄型液晶テレビなどに使用されるLCDドライバー向けプローブカードの需要は、2008年の北京オリンピック開催に向け確実に拡大していく見込みですので、大きな成長が望めそうです。この領域でも、新しい針材の適用、更にMAシリーズの展開などで、当社の強みを発揮していく所存です。

半導体の将来を見据え、開発費を拡大。 これからも世界をリードしつづける技術を。

このような状況の中、2006年度中間期連結売上高は82億7千7百万円（前中間期比30.0%増）、このうち戦略商品のアドバンスプローブカードの売上高は37億8千8百万円（同79.6%増）となりました。電子管部門は世界的なブラウン管市場の縮小に伴い需要が衰退し、売上高は1億1千万円となりました。今後の展開としましては、半導体産業の急速な技術進歩に対応した顧客要求に応えるため、開発に一層力を入れていく考えです。具体的には、現在の主力製品であるVC、VSシリーズの更なる用途拡大を図ると同時に、次世代プローブカードであるMA、MCシリーズの本格的市場参入に向け量産体制を構築、また優れた特性を有する新針材の開発を進めてまいります。

そのため、当期は開発に対してこれまでを大幅に上回る費用と人員を投入しています。開発費は通年で12億円（前期比56.6%増）、売上高の8.0%を投入していく計画です。また、次世代プローブカードの量産体制の確立に向け、新しい生産設備の投資も積極的に行っています。今後も引き続き投資を惜しむことなく、世界をリードする技術力で、着実に、一步ずつ世界No.1を目指していきたいと考えています。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 坂根英生



プローブカード

半導体使用製品の増加・用途の多様化とともに
ますます需要の高まる、当社の主力製品。

■プローブカードとは？

近年需要が拡大している携帯音楽プレーヤーや、携帯電話、薄型テレビやデジタルカメラなど、様々な分野の製品に応用が拡大されている半導体。この半導体の製造に欠かせないのが、当社の主力製品「プローブカード」です。

半導体の製造工程は、ウエハに回路を作り込む「前工程」と、ウエハをチップに切り分けてパッケージに封入する「後工程」に分かれますが、プローブカードは前工程の最終検査（ウエハテスト）に用いられます。

■半導体の用途の多様化とともに需要が拡大

当社は1970年、このプローブカードの製造を日本で初めて開始。以来順調に成長を続け、国内をはじめアジア、アメリカ、ヨーロッパの市場に製品を供給しております。

近年、半導体の小型化、高機能化に伴ってウエハテストの重要性の高まりや、半導体の用途の拡大により、プローブカードの需要は急増しています。

■常に安定した需要

プローブカードは、テストする半導体の仕様に合わせて個別に設計、製造される特注品。そのため、半導体のモデルチェンジの都度それに応じたプローブカードが新規に製造されます。またプローブカードは消耗品でもありますので、半導体メーカーの設備拡張がなくても工場の稼動に応じて一定数が消費され、シリコンサイクル（半導体市場の好不況の波）の影響を受けにくいという特徴もあります。

カンチレバー型プローブカード



CEシリーズ

アドバンスプローブカード



VCシリーズ（垂直接触型）



VSシリーズ
（垂直スプリング接触型）

電子管部品

1960年の創業以来、品質・信頼性・性能において
高い評価を受け続ける電子管部品。

■創業以来愛され続けるJEMの電子管部品

当社は1960年の創業以来、ブラウン管用ヒーター、カソード等の製造に取り組み、現在ではハイビジョンを含むテレビ用、コンピューター用、測定用そしてレーダー用など、幅広いディスプレイ用途のニーズに応えております。

CRTヒーター

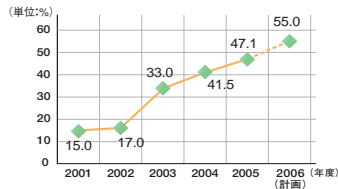


半導体業界の技術革新に即応し、アジア地域での優位性を高める。

半導体業界は近年急速に技術革新が進み、今後ますます事業環境は変動していくと思われます。そのような中、当社は市場の動向を見極めた新製品の開発と投入を積極的に進め、国内のみならず海外においても拠点を拡充し、特に成長著しいアジア地域において当社の優位性を高めたいと考えております。本年度の事業戦略としまして、掲げているのは以下の5項目です。

① アドバンスプローブカードの戦略的拡販 アドバンス比率55%以上

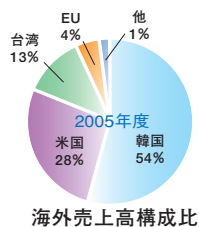
- VCシリーズ(垂直接触型)
 - 使用領域の拡大(300mm一括ほか)
 - 顧客開拓の推進、市場拡大
- VSシリーズ(垂直スプリング接触型)
 - メモリー向け(300mm一括)の本格量産
 - ロジック向けの更なる市場拡大



アドバンスプローブカード売上高比率

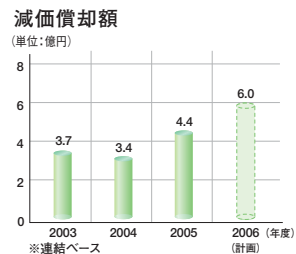
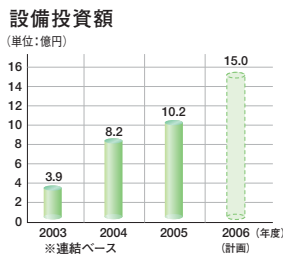
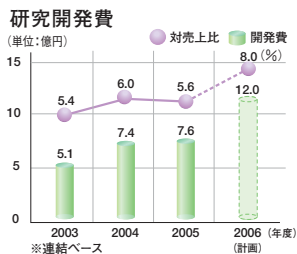
② 海外売上上の更なる拡大

- 韓国、台湾、中国、シンガポール市場の拡大、開拓

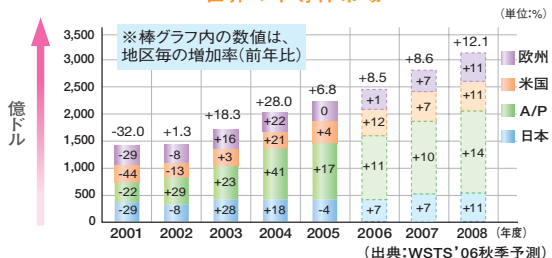


海外売上高構成比

上記の戦略に基づき、当社では研究開発投資、設備投資を継続的に行っており、2006年度は研究開発投資12億円(前期比56.6%増)、設備投資15億円(同46.6%増)を予定しております。また、アジアの新しい拠点として、JEMシンガポールを開発いたします。



世界の半導体市場



③ 次世代アドバンスプローブカードの客先認証と量産体制の構築

- MAシリーズ(MEMS技術微細高密度プローブカード)
使用例:LCD-Dr (20μmピッチ、多個取り)
- MCシリーズ(MEMS技術大領域高密度プローブカード)
使用例:メモリー (DRAM、FLASH)

④ 新針材プローブカードの投入

- 新針材(NP3)プローブカードを市場に投入。NP2を超える低針圧、狭ピッチ、安定接触を実現。

⑤ 新市場開拓

- パラメトリックテスト(半導体製造前工程でのインラインテスト)領域の開拓
- 特殊プローブカード(イメージセンサー向け・高周波対応)の開拓

TOPIC 1

2006年5月・6月・7月／3ヵ月連続で月次売上高の最高額更新

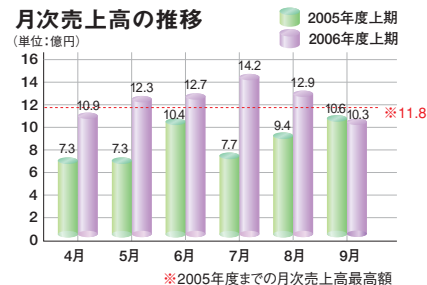
大幅な売上増により、期初の計画を上回る見通しとなり、8月、中間及び通期の連結業績予想を上方修正いたしました。

(単位：億円)

	2005年度	2006年度	
	実績	計画	見込 (前期比)
売上高	137.6	150.0	160.0 (+16.2%)
営業利益	20.4	22.6	27.0 (+32.3%)
経常利益 (経常利益率)	21.2 (15.4%)	23.0 (15.3%)	28.2 (17.6%) (+33.0%)
当期純利益	13.7	15.0	17.7 (+29.1%)

月次売上高の推移

(単位：億円)



TOPIC 2

2006年7月／個人投資家向け会社説明会開催

7月21日、東京丸ビルにて、個人投資家向け説明会が開催され、社長の坂根英生がお集まりいただいた個人投資家のみなさまに向け、「成長し続ける創造型企業をめざして」と題した講演を行いました。当社の主力製品であるプローブカードの概要から、半導体検査機器業界の現状、今後の海外における生産体制のビジョン、来期経営計画の構想などを約40分に渡って説明。その後、投資家のみなさまとの質疑応答の時間も設けられ、当社の事業内容に対する投資家のみなさまの関心の高さを実感できる貴重な時間となりました。



TOPIC 3

2006年8月／株主優待実施を決定

株主のみなさまへの感謝の気持ちを込め、2006年度中間配当に際し、株主優待を実施することといたしました。これは、100株以上の株式を有する株主のみなさまに、熊本県産“七城のこめ”を贈るものです。“七城のこめ”は、当社の主力工場である熊本工場の所在地、熊本県菊池市七城町の特産品で、(財)日本穀物検定協会主催「2005年産 米の食味ランキング」において最高位「特A」を獲得しています。当社熊本工場は、1986年6月に当地でプローブカードの製造を開始して以来、最先端技術の製品を世界に供給しています。



熊本工場と七城のこめ

TOPIC 4

2006年9月／「SEMICON Taiwan 2006」に出展

世界最大の半導体製造装置・材料の国際展示会「SEMICON」が、9月11日～13日、台湾・台北市内にある世界貿易センタービルで開催されました。世界各地から150社が出展した中、当社の100%子会社であるJEM台湾もその販売代理店であるSTAR Technologies, Inc.と共同出展し、多くの来場者をお迎えしました。今回の出展は、当社の台湾市場で評価の高いLCD-Dr向けプローブカードが中心で、特に来年より発売を予定しているMAシリーズ(MEMS技術微細高密度プローブカード)は、年々微細化が進むLCD-Dr ICの狭ピッチ化に対応する全く新しいタイプのプローブカードとして、来場者の高い関心を集めました。



拠点クローズアップ

「世界の工場」中国でも、現地顧客から高い評価を受けています。

上海日智電子有限公司 (JEM上海)

JEM上海は2003年7月、上海中心から北東約40kmの「外高橋保稅区」に設立されました。主力製品であるプローブカードの設計およびメンテナンスを通して、その品質の高さとサービスのきめ細やかさから、日系企業が数多く進出しているこの地においても、お客様より高い評価を受けています。



「世界の工場」と言われるようになった中国、その中でも「中国のシリコンバレー」上海では世界の大手半導体メーカーがしのぎを削っています。事業環境の変化がきわめて早く、技術や生産規模、生産モデルが日々高度化、多様化するここ上海。同社は日本人技術者と現地スタッフの協力によって、お客様のニーズに的確、迅速に対応しています。また、当社海外営業部門と連携して新たな市場、顧客を開拓していく使命を担っている、アジア市場における重要拠点です。



上海日智電子有限公司 上海市外高橋保稅区富特北路229号3F 200131
TEL.+86-21-5868-2700 FAX.+86-21-5868-2701

業績の推移（連結）

（単位：億円）

期 別 決 算 期	2004年度		2005年度		2006年度
	中間期	通期	中間期	通期	中間期
売 上 高	63.6	125.4	63.6	137.6	82.7
営 業 利 益	12.1	20.5	7.9	20.4	15.4
経 常 利 益	12.5	20.6	7.7	21.2	16.3
中 間（ 当 期 ） 純 利 益	6.5	12.3	4.8	13.6	10.2
1株当たり中間(当期)純利益(円)	80.60	144.83	46.04	123.37	97.11
総 資 産	126.0	132.8	135.4	150.6	161.4
純 資 産	91.9	97.0	101.1	110.3	117.2
1株当たり純資産(円)	1,128.65	1,183.80	954.64	1,035.95	1,106.93

※2005年5月18日付で1株を1.3株に株式分割しております。1株当たり情報は2005年度中間期は株式分割後の株式数、それ以前は株式分割前の株式数により算出しております。
 ※記載金額未満は切り捨てて表示しております。

ポイント

■売上・収益動向 当中間連結会計期間の連結業績はフラッシュメモリー向けのアドバンスプローブカードVCシリーズの売上が好調に推移するとともに、システムLSI向けはアドバンスプローブカードVSシリーズを含め、売上が拡大するなど好調な業績を確保しました。その結果、売上高は82億7千7百万円（前中間期比30.0%増）、利益面は操業度の上昇や生産効率の向上により、営業利益は15億4千9百万円（同94.6%増）、経常利益は16億3千万円（同109.7%増）、中間純利益は10億2千8百万円（同110.9%増）とすべてにおいて過去最高額を更新することができました。

■財務動向 当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、税金等調整前中間純利益16億2千万円に加え、仕入債務の増加、減価償却費等の収入がありますが、売上債権の増加、法人税等の支払、有形固定資産の取得、投資有価証券の取得、当社配当金の支払等の支出により、前中間連結会計期間に比べ7億4千2百万円減少し、当中間連結会計期間末には29億7千万円（前中間期比20.0%減）となりました。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、2億5千万円（前中間期比64.2%減）となりました。これは主として、税金等調整前中間純利益16億2千万円、仕入債務の増加3億5千7百万円、減価償却費2億5千1百万円等の収入がありますが、売上債権の増加13億5千2百万円、法人税等の支払4億4千3百万円、棚卸資産の増加5千5百万円、役員賞与の支払6千3百万円、その他負債の減少8千4百万円等の支出によるものです。

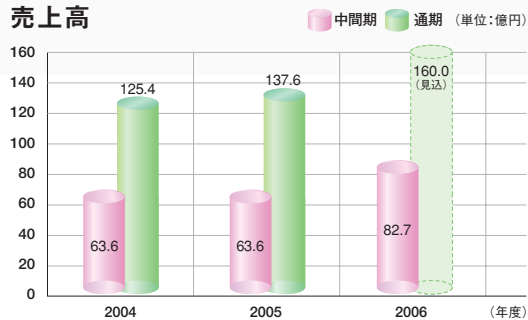
●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用した資金は7億3千7百万円（前中間期比17.8%減）となりました。これは主として有形固定資産の取得4億2千2百万円および投資有価証券の取得2億6千1百万円等の支出によるものです。

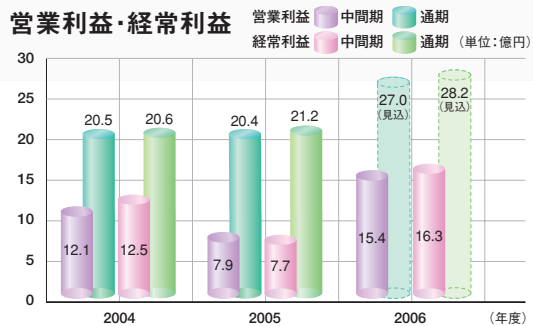
●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動に使用した資金は1億7千1百万円（前中間期比4.1%増）となりました。これは主として短期資金の借入1億5千万円の収入がありますが、当社の配当金支払額2億1千1百万円および短期借入金の返済1億1千万円等の支出によるものです。

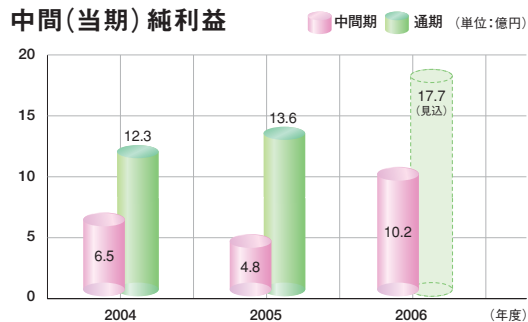
売上高



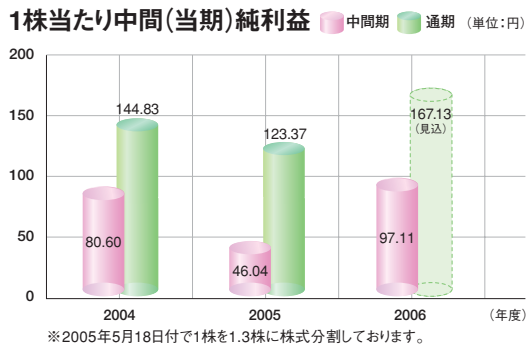
営業利益・経常利益



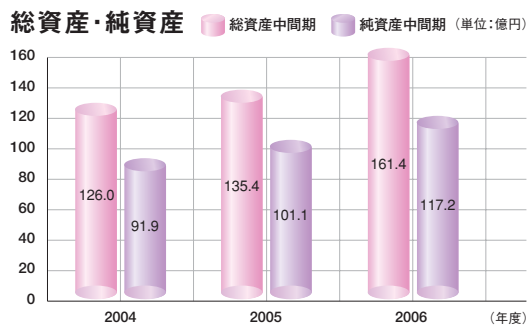
中間(当期) 純利益



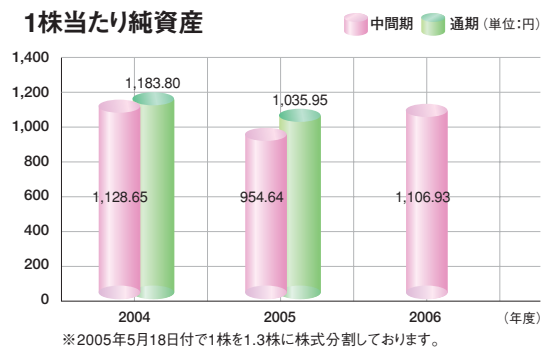
1株当たり中間(当期)純利益



総資産・純資産



1株当たり純資産



財務諸表（連結）

貸借対照表

（単位：千円）

科 目	当中間連結会計期間末 (2006年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (2005年9月30日現在)
【資産の部】		
流動資産	11,408,994	9,645,719
現金及び預金	3,194,092	3,899,296
受取手形及び売掛金	6,734,886	4,266,913
有価証券	274,315	244,644
たな卸資産	992,988	934,487
その他	239,357	331,922
貸倒引当金	△26,645	△31,546
固定資産	4,735,334	3,895,070
有形固定資産	2,960,336	2,598,445
建物及び構築物	639,925	655,716
工具器具備品	846,079	733,521
土地	455,847	480,949
その他	1,018,484	728,257
無形固定資産	231,731	66,453
投資その他の資産	1,543,266	1,230,172
投資有価証券	1,337,295	950,723
その他	207,148	280,629
貸倒引当金	△1,178	△1,180
資 産 合 計	16,144,329	13,540,789

科 目	当中間連結会計期間末 (2006年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (2005年9月30日現在)
【負債の部】		
流動負債	3,795,815	2,843,222
支払手形及び買掛金	2,550,446	1,818,680
短期借入金	150,000	150,000
未払法人税等	493,769	199,140
役員賞与引当金	30,000	—
その他	571,600	675,401
固定負債	625,678	586,296
役員退職慰労引当金	440,400	431,900
その他	185,278	154,396
負債合計	4,421,494	3,429,518
少数株主持分	—	—
【資本の部】		
資本金	—	983,100
資本剰余金	—	1,202,500
利益剰余金	—	7,934,903
その他有価証券評価差額金	—	91,013
為替換算調整勘定	—	△88,628
自己株式	—	△11,617
資本合計	—	10,111,271
負債、少数株主持分及び資本合計	—	13,540,789
【純資産の部】		
株主資本	11,635,980	—
資本金	983,100	—
資本剰余金	1,202,500	—
利益剰余金	9,464,622	—
自己株式	△14,242	—
評価・換算差額等	86,854	—
その他有価証券評価差額金	100,109	—
為替換算調整勘定	△13,255	—
純資産合計	11,722,834	—
負債及び純資産合計	16,144,329	—

損益計算書

(単位：千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)	前中間連結会計期間 (自2005年4月1日 至2005年9月30日)
売上高	8,277,349	6,369,017
売上原価	4,956,567	4,114,338
売上総利益	3,320,782	2,254,679
販売費及び一般管理費	1,771,414	1,458,469
営業利益	1,549,367	796,210
営業外収益	98,399	37,006
営業外費用	17,743	55,884
経常利益	1,630,023	777,332
特別利益	20,694	-
特別損失	30,445	-
税金等調整前中間純利益	1,620,272	777,332
法人税・住民税及び事業税	580,598	251,765
法人税等調整額	11,182	37,852
中間純利益	1,028,491	487,715

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)	前中間連結会計期間 (自2005年4月1日 至2005年9月30日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	250,411	699,036
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△737,656	△897,798
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△171,408	△164,665
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△17,690	41,834
V 現金及び現金同等物の増加額(△は減少額)	△676,343	△321,593
VI 現金及び現金同等物の期首残高	3,646,615	4,034,513
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	2,970,272	3,712,920

株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自2006年4月1日 至2006年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
2006年3月31日残高	983,100	1,202,500	8,711,240	△14,054	10,882,786	137,049	14,695	151,745	11,034,532
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△211,809		△211,809				△211,809
役員賞与			△63,300		△63,300				△63,300
中間純利益			1,028,491		1,028,491				1,028,491
自己株式の処分				△188	△188				△188
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△36,940	△27,950	△64,890	△64,890
中間連結会計期間中の変動額合計			753,381	△188	753,193	△36,940	△27,950	△64,890	688,302
2006年9月30日残高	983,100	1,202,500	9,464,622	△14,242	11,635,980	100,109	△13,255	86,854	11,722,834

財務諸表 (単体)

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当中間会計期末 (2006年9月30日現在)	前中間会計期末 (2005年9月30日現在)
【資産の部】		
流動資産	9,384,085	7,920,931
固定資産	4,751,841	4,276,922
有形固定資産	2,508,401	2,363,041
無形固定資産	222,157	60,959
投資その他の資産	2,021,282	1,852,920
資 産 合 計	14,135,927	12,197,853

科 目	当中間会計期末 (2006年9月30日現在)	前中間会計期末 (2005年9月30日現在)
【負債の部】		
流動負債	3,541,738	2,655,437
固定負債	443,823	431,900
負債合計	3,985,562	3,087,337
【資本の部】		
資本金	—	983,100
資本剰余金	—	1,202,500
利益剰余金	—	6,853,015
その他有価証券評価差額金	—	83,517
自己株式	—	△11,617
資本合計	—	9,110,515
負債及び資本合計	—	12,197,853
【純資産の部】		
株主資本	10,049,673	—
資本金	983,100	—
資本剰余金	1,202,500	—
利益剰余金	7,878,315	—
自己株式	△14,242	—
評価・換算差額等	100,691	—
純資産合計	10,150,365	—
負債・純資産合計	14,135,927	—

損益計算書

(単位：千円)

科 目	当中間会計期間 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)	前中間会計期間 (自2005年4月1日 至2005年9月30日)
売上高	7,351,397	5,303,026
売上原価	4,804,903	3,713,751
売上総利益	2,546,493	1,589,275
販売費及び一般管理費	1,450,164	1,168,129
営業利益	1,096,329	421,146
営業外収益	173,803	232,753
営業外費用	10,808	51,536
経常利益	1,259,324	602,363
特別利益	—	1,185
特別損失	30,445	—
税引前中間純利益	1,228,879	603,549
法人税・住民税及び事業税	410,000	145,000
法人税等調整額	1,397	58,902
中間純利益	817,482	399,647
前期繰越利益	—	2,016,789
中間未処分利益	—	2,416,436

ホームページ



<http://www.jem-net.co.jp>

当社ホームページでは、決算公告、IRスケジュール、投資家向けFAQなどのIR情報はじめ、製品・技術情報など、最新の情報がご覧いただけます。どうぞご利用ください。

世界に広がる生産拠点と研究開発のグローバルライゼーション

エレクトロニクス産業の国際化に対応して、JEMでは1987年に世界の半導体企業が集まるアメリカのシリコンバレーに進出して以来、先駆的に海外に生産拠点を設けてきました。顧客に近接する事により顧客ニーズに即応するということと、コスト競争力を実現するためのグローバルロジスティックスが、この背景です。特に、プローブカードの分野では、半導体の回路設計と一体化してプローブカード設計を迅速に実行するため、顧客近接は必須です。JEMは、アメリカ・中国・台湾・韓国・ヨーロッパに生産拠点を持ち、グローバルサポートを強力に推進しています。



国内事業所

- | | | | |
|-------------|-----------|---------------------------------|------------------|
| ● 本 社 | 〒660-0805 | 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 | TEL.06-6482-2007 |
| ● 本 社 工 場 | 〒660-0805 | 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 | TEL.06-6482-3001 |
| ● 電 子 | 〒660-0805 | 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 | TEL.06-6482-2761 |
| ● 熊 本 工 場 | 〒861-1344 | 熊本県菊池市七城町蘇崎1396番5号 | TEL.0968-26-4101 |
| ● 東 京 営 業 | 〒210-0005 | 神奈川県川崎市川崎区東田町8番 ハレール三井ビルディング16F | TEL.044-246-1244 |
| ● 静 岡 営 業 | 〒424-0886 | 静岡県静岡市清水区草薙2168-1 | TEL.0543-47-4439 |
| ● 東 北 出 張 所 | 〒980-0021 | 宮城県仙台市青葉区中央4丁目7番17号 ベルザ仙台ビル11F | TEL.022-716-3616 |

株式の状況

株式事項 (2006年9月30日現在)

■ 発行可能株式総数 40,000,000株

■ 発行済株式総数 10,604,880株

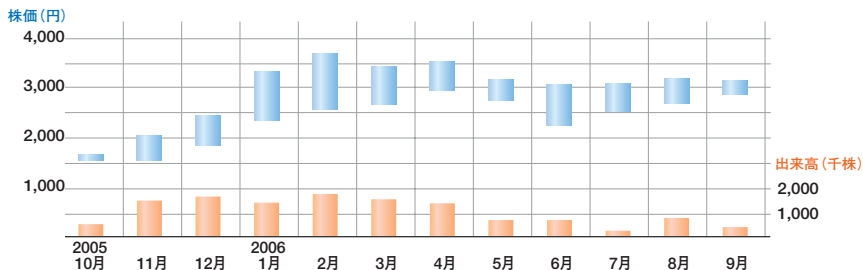
■ 株主数 2,776名

大株主 (2006年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
(有) 大久保興産	1,131	10.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	733	6.94
日本マスタートラスト信託銀行(株)	710	6.73
大久保和正	465	4.41
大久保英正	436	4.13
バンクオブニューヨークジーシーエム クライアントアカウントスイーアイエスジー	406	3.84
大久保昌男	392	3.71
(株)三菱東京UFJ銀行	343	3.25
古山陽一	284	2.69
ドイチェバンクアーゲーロンドン ビービーノントリティークライアントズ613	226	2.14

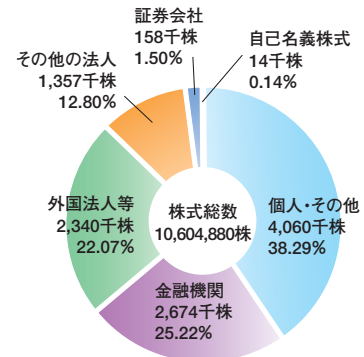
(注) 上記信託銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は以下のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 733千株 日本マスタートラスト信託銀行(株) 710千株

株価チャート

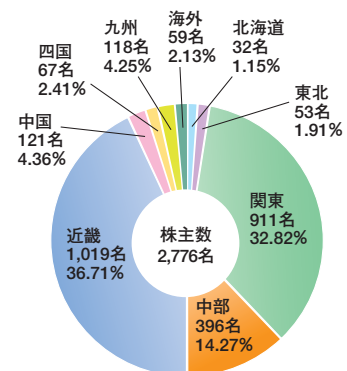


株式分布状況 (2006年9月30日現在)

所有者別株式数



地域別分布状況 (株主数)



会社概要・株主メモ

会社概要

社名	日本電子材料株式会社
英訳名	JAPAN ELECTRONIC MATERIALS CORPORATION
設立	1960年4月6日
資本金	983,100千円
事業内容	半導体検査用部品 ・カンチレバー型プローブカード プローブ(探針)の形状が力学でいう片持ち梁(cantilever)の構造を持ち、最も一般的に使用されているタイプです。 CEシリーズ ・アドバンスプローブカード プローブ(探針)の形状が垂直型で主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。 VCシリーズ(垂直接触型) VSシリーズ(垂直スプリング接触型)
株式市場	電子管部品 ・CRTヒーター、フィラメント、陰極各種ヒーター等 東京証券取引所市場第1部
証券コード	6855

役員 (2006年9月30日現在)

取締役会長	大久保 昌 男
代表取締役社長	坂 根 英 生
常務取締役	大久保 和 正
常務取締役	石 田 進
取締役	厚 地 義 尚
取締役	古 崎 新一郎
取締役	大 澤 茂 巳
常勤監査役	幸 王 泰 久
監査役	嶋 田 義 行
監査役	豎 山 義 三

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会…3月31日(その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当…期末配当 3月31日・中間配当 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) ☎0120-094-777
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) ☎0120-244-479(本店証券代行部) ☎0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
単元未満株式会社の買取請求取扱場所	上記株主名簿管理人の事務取扱場所および同取次所でお取扱いいたします。 なお、「株券等の保管振替制度」をご利用の株主様は、お取引証券会社等を経由してご請求ください。
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載して行います。



<http://www.jem-net.co.jp>

